

令和6年度第2回大船渡市学校支援活動運営委員会

日 時 令和6年11月26日(火) 午後2時55分～午後3時50分
場 所 大船渡市役所 第一会議室
出席者 運営委員会委員 4名
高橋多鶴子委員長、紀室浩副委員長、菅原優子委員、梅澤聖史委員
大船渡市
生涯学習課：課長、課長補佐、主任
中央公民館：館長補佐、主任
学校教育課：指導主事

〔会議内容〕

1 開 会

2 挨拶 高橋委員長

3 協 議

第1号 令和6年度大船渡市地域学校協働本部事業の実施状況について
事務局より、別紙資料のとおり事業実施状況について説明し、意見を諮った。

〈意見・質疑応答〉

【家庭教育学級、英語体験教室、青少年体験学習事業について】(P3～29)

紀室委員：家庭教育学級について、アンケートに「参加できない方が残念」という内容があった。保護者は仕事があるため参加が難しい中だが、内容は非常に良いもので、高評価だと感じた。(資料P5)
英語体験教室について、全国の学力の調査で東北地区の英語の学力が全国で最も低い状況だが、英語に接する機会が少ないことも一因と考える。今後も、予算の許す限り事業を継続してほしい。また、アンケートによる参加時期について、長期休暇中を希望する声があることから、参加しやすい時期に実施していただくようお願いする。(資料P9)
青少年体験学習事業について、理系の学力も落ちてきている状況を見ると「おやこ科学教室」の取り組みが非常に良いと感じた。今回の参加率は高くないが、繰り返し実施することで参加者も増えていくのでは。(資料P17)

「おやこ科学教室」の内容はどのようなものだったのか？

市の考え方：(中央公民館)「明かりを灯す」をテーマに、シャープペンの芯、県産の漆を使った実験を行った。

紀室委員：身近なものを使った内容で、子どもたちにとって良い事業と感じた。

梅澤委員：家庭教育学級に参加させていただいたが、良い内容だったので、もっと声掛けすればよかった。(資料P3)

菅原委員：家庭教育学級について、教職員も参加しているか。また、参加した教職員が他の職員に情報共有や伝達講習など行っているものなのか。(資料P6)

市の考え方：（中央公民館）教職員にも参加いただいているが、その後の情報共有等について中央公民館から踏み込んではいない。

菅原委員：英語体験教室について、以前参加したことがあり子どもたちも楽しそうに参加していた。次回も同じ講師であれば、改善してほしい点として塗り絵の時間がもったいないと思い講師に直接伝えたが、今回の教室のアンケート結果に同様の意見があった。せっかく英語で接せる機会であるのに、塗り絵はやり始めると集中してしまう。家でもできることなので、これからも継続していくのであれば英会話自体を楽しむために改善していくべきと感じた。（資料 P 15）

また、アンケートの設問に、「アイデアを考えたり、工夫したりできた」という項目があるが、今回の内容と自分が参加した時の内容が変わっていなければ、自らアイデアを考えたり工夫したりする内容ではないと思う。（資料 P 12）

菅原委員：教室について東海新報に掲載していたと思うが、中央公民館、東海新報で発信している情報に齟齬があった。校正はしないのか。

市の考え方：（中央公民館）東海新報の掲載内容について依頼者から校正はできないが、後日記事内容の訂正は依頼できる。今後は注意していく。

菅原委員：ふるさと教育講座について、成果指標に「自分の住む町や大船渡市の良いところを挙げることができる」「～説明することができる」とあり指標としては低い水準であるが、おそらく子どもたちはこの設問自体をよく理解（イメージ）できていないのではないのか。（資料 P 27）

市の考え方：（中央公民館）市としても指標の水準の低さの要因の一つであると考え、設問を工夫していく。

高橋委員長：「相手意識」を持つことが大切である。

ふるさと教育講座の講師選定は、どのように行ったのか。

市の考え方：（中央公民館）担当者と学校が協議を行った。昨年は大船渡の歴史講話を行ったため、今年度はジャンルを変えようとなり、学校側が「産業」、特にも起業者を要望していたことから、今回の講師となった。

高橋委員長：全体をとおして、満足度が高く素晴らしい内容であるがこそ、アンケートの自由記載欄によく目配りしてほしい。

6 その他

事務局：第3回運営委員会の開催を2月頃に予定する。

7 閉 会